



ふとしたきっかけで

一般財団法人地域社会ライフプラン協会
堀内 教夫

数年前、妻の病気がきっかけで、東洋医学を頼ることとなった。症状は原因不明の背中及び首の痛みで、ごく普通に最初は整形外科に通い、そこで温泉がいいよと言われたので、あちこちの温泉に連れて行ってはみたものの、所詮、週末の旅行で行く程度では、なかなか治らず、却って発作的に症状が悪化することもあった。

何かほかに手はないかと、妻の母親の紹介で鍼に通い始めたのだが、自宅から離れたところにあり、また、時間的にも金銭的にも週に何度も通えるようなものではなく、施術を受けた時はいくらかよくなるようであったが、それほど期待したような効果は得られなかった。

そこで、自分たちでもできる方法はないかとネットで別の手段を探し求め、出会ったのがお灸であった。テレビのCMでもよく見かけて簡単そうだし、何処に据えればよいかかわかれば、自分でもできそうだと安易に考え、ちょうど新しくオープンした治療室が、初心者向けの教室を開催していたので、その治療室に通うことにした。

初心者向けの教室では、ヨモギの葉から艾（もぐさ）を作ったり、簡単な施灸点（ツボ）の取り方を教わったりした。また、当時は治療室も新しく始まったばかりで、普及活動に力点が置かれていたためか、それとも私が図々しかったからか、一緒に施術室に入って妻が治療されている様子も



見学させてもらえた（残念ながら、今はできません）。

実際に体験してみて、一番、イメージしていたものと違ったのが、熱くないことで、むしろ心地よい感じ。慣用句の“お灸を据える”のイメージが強くて、お灸というと熱いのをグッと堪えてよくなるのを待つものと勝手に思い込んでいたのだが、正しくは、その逆で、熱さを感じたら終わり。もちろん、艾に火をつけるわけだから、当然に熱はある筈なのだけれども、正しいポイントだと、不思議なことに最初は熱さを全く感じない。

当初は、自分自身が治療を受けるつもりは全くなかったのだが、ふとしたきっかけで（それも予想外の）、自らも治療を受けるようになった。きっかけは、妻の病気の原因が判明（症状からは全く想像がつかなかったのだが、実は心臓の病。鍼の先生はその可能性を示唆されていたらしい）し、緊急手術を受けたことであった。本来はキャンセルするものを、せっかくだから一度くらい自分も受けてみるかと代わりに体験し、以後、予約が入る範囲で通うようになった。

必ずしも即効性があるものではなく、治療後、心地よさはあるものの、治療をお願いした症状（私の場合は、膝がおかしい、腰が少し痛い、風邪でのが痛いとか）は少し楽になったけど完全には無くないなあというものが、1週間後くらいには、何を治療してもらったかを忘れてるものも多く、未病のうちに治してもらっているのかなという気がする。